

第2回石川県成長戦略会議
(個性豊かな地域づくり部会)
議事録

(開催要領)

1. 開催日時：令和5年4月28日(金) 10時～12時
2. 場所：石川県地場産業振興センター本館2階 第1研修室
3. 出席委員(五十音順)：

| | |
|---------|--------------------------------------|
| 伊藤 数子 | 特定非営利活動法人STAND代表理事 |
| 井村 辰二郎 | 株式会社金沢大地代表取締役 |
| 岩城 慶太郎 | アステナホールディングス株式会社代表取締役社長 |
| 唐澤 昌宏 | 国立工芸館長 |
| 興津 泰則 | DIBC Office KYOZU代表 |
| 久保 幸男 | 一般社団法人石川県芸術文化協会理事長 |
| 志村 恵 | 金沢大学副学長 |
| しもおきひろこ | フードコーディネーター |
| 高峰 博保 | 能登定住・交流機構代表理事 加賀白山定住機構事務局長 |
| 西川 圭史 | 株式会社石川ツエーゲン代表取締役GM |
| 早川 和良 | 石川県観光総合プロデューサー |
| 丸山 章子 | 金沢学院大学スポーツ科学部教授 公益財団法人石川県スポーツ協会理事 |
| 水野 一郎 | 金沢工業大学教育支援機構副委員長 |
| 水本 協子 | 石川地域づくり協会運営副委員長 |
| 森 文厚 | 一般社団法人日本旅行業協会中部支部石川地区委員会委員長 |

(議事次第)

1. 開会
2. 議事
石川県成長戦略(仮称)素案について
3. 意見交換
4. 閉会

(説明資料)

- 資料 石川県成長戦略(仮称)素案
- 参考資料1 第2回石川県成長戦略会議の主な意見
- 参考資料2 第2回石川県成長戦略会議議事録
-

1. 開会

2. 議事

(事務局から会議資料に基づいて説明)

【伊藤委員】

KPI設定は非常にいいことだなと思いました。いつも見えるところに目標数値があるというのはとても効果のあることではないかと考えました。

1枚カラーの紙をお持ちいたしました。こちらをぜひご覧いただきたく思います。長いことスポーツの現場にいましたところからの意見とご理解いただければと思っております。

今日の資料によりますと、20ページの辺りと関連が深いと思っておりますし、さらには43ページ、いろんな人たちが一緒に生きていく温かい社会にも関わってくると思います。簡単に説明させてください。

20ページにありますように、スポーツの力で共生社会を実現しようと。障害のある人がスポーツをする、スポーツを推進することが何で共生社会になるのかについてお話しします。少し段階を追って説明をさせていただきますと、上から2つ目の緑色のところ、いろんな人が自分のやりたいことに挑戦できる社会というのが、個性と魅力にあふれる社会だと思っております。存分にチャレンジできることが幸福の一つと私は考えています。それをスポーツで実現できたというのが下のところです。現在、県内のトップスポーツのチームのかっこいいアスリートの皆さんが、県民との交流やスポーツ体験イベント、あるいは小中学校や特別支援学校のスポーツ教室などに出向いて、特に子どもたちと交流することが既に行われています。

そこで、私をご提案したいのは、パラスポーツのチーム、多分、ご存じない方が多いと思うんですけども、例えば電動車椅子サッカーのチーム。これは金沢にありまして、全国で2位になったこともあるチーム。それから、車椅子バスケットボール。この競技はよくご存じだと思いますが、**Jamane** 石川というチームが石川県にあります。これは大丈夫やという意味のじゃまねえからつけられた名前です、そのほかにもフライングディスクとかバレーボールとか、パラスポーツのパラアスリートたちのチームがあります。このチームもツエーゲンやミリオンスターズたちと同じように支援学校やスポーツイベントに出かけて行って活躍してもらおう。パラアスリートの姿を見てもらうことにまず一つ目の価値があると思います。

右下に行きますと、事業例としては複数競技の教室を開いたり、ボランティアのアカデミーを開いたり、いろんなことがこれから考えられると思っておりますが、それらを通じて共生社会がどう成り立つかということが真ん中の丸に書いてあります。「すべての人が好きなことにチャレンジする」ことを特に子どもたちを中心に知ってもらおう。足が動かないからこれができない、目が見えないからこれができないではなく、自分のやりたいことに挑戦していることをまず知ってもらいたい。

そして、それを日常的に、何度も何度も見ていくと、見慣れるとか、その人との交流で接することで慣れることはとても大事です。例えば車椅子の人と「初めまして」と初対面で会うと、その人を象徴する最大の特徴が車椅子の人となってしまう。でも、一緒にバスケットをやったらすごくうまい。物すごく負けず嫌い。でも、教えてくれるときは意外と優しい。海外に行っていて英語が堪能だった。趣味は映画ということが分かっていく。すると、その人は

バスケットがうまくて、負けず嫌いで、練習の鬼で、でも優しくて英語がうまい。それで車椅子に乗っているというふうには、車椅子に乗っていることそのものがその人を象徴する最大の特徴ではなくなっていく。これがスポーツを通して共生社会につながっていくということだと思います。これからどんどん石川県でこういった事業展開をしていきたいと考える理由の一つです。そのための道具としてスポーツは非常に有効ではないかと考えているわけです。

スポーツの推進は、障害のある人も含めていろんな人がスポーツをすることもとても大事ですが、その場面を通して、いろんな人がいて、いろんなことをする。その人の最大の特徴は車椅子に乗っていることではないことなんかが分かっていくことが、スポーツを通して社会を変えていくということではないかと思うわけです。そういった場面がこれからも石川県でたくさん持てたらいいなと考えている次第です。

【水野座長】

共生社会というテーマが国際化の中でも世界中でいろいろな動きが出ています。日本は少し遅れているのではないかとよく言われますけれども、そういう意味ではスポーツも一つの大きな共生社会をつくる力になるのではないかと思います。やっぱり豊かな地域にはそういうことが存在している必要があると思います。

【井村委員】

農林水産業と食品関係の仕事をしております。

まず、第1に印象としまして、石川県の強みであります食文化に対する言及がほとんど盛り込んでいない。全てに関わってくるのだと思いますので、食文化をどう捉えるのかをぜひ盛り込んでいただければと思います。

2点目なんですけれども、人口を増やすことが必ずしも幸福度につながるかどうか分からないですけれども、人口減少社会に向かっていく中で、石川県の人口を保つあるいは増やすことはすごく大事なことだと思っております。

そんな中で、先般、農業関係の勉強会の中で講師の先生が、石川県の20代の女性の県外流出率が日本で一番多いというデータを示していただきました。私の娘も今大学を出て2年目なんですけれども、高校の同級生、皆さん優秀な方が県外の大学に出られて戻ってこない。働き場所、就職の問題とか、いろんなことがあると思うんですけれども、出ていった子たちが卒業したら企業を経てでもいいので、ふるさとに戻ってきたいという気持ちをどうやってつくっていくのがすごく大事なことだと思っています。

それは食文化も関係するでしょうし、教育、特に小中高の教育に対する考え方はとても大事なことだと思っております。いかに石川県のよさを子どもたちに知ってもらって、一時は県外へ出てもいいと思うんですけれども、生涯自分が住む場所として、石川県に暮らす豊かさをちゃんと伝えるような教育というところがすごく大事なのかなと感じましたので、そこも盛り込んでいただけないかなというのがあります。

3つ目なんですけれども、KPIを示していただいています。細かいことなんですけれども、コロナというところで数字がすごく変わっていると思うんです。KPIを出していただいたのですけれども、相対する年がばらばらで、やはり2019年、コロナ前と比べて10年後どうなるのかという目標に統一してもらったほうがKPIとしてはいいのかなというのが1点と、KPIをせっかく作った場合、今、世界的な流れとしてそれを達成するためにバックキャストリングをしていくことがすごく重要だと思うので、定点的な検証もやっていくのでしょ

けれども、K P Iに対してどうやって野心的なアクションを起こしていくのかという、K P Iとひもづいたアクションが書かれていると分かりやすいのかなと思いました。

【水野座長】

ちょっと事務局にお尋ねしたいんですけども、今のK P Iの目標年次については何かございますか。

【山口企画振興部次長】

基本的にK P IはR14年度、いわゆる10年後を見据えたような形での設定と目標年次はさせていただいております。その中で、そもそも基準となる年につきましては、公的な統計等も参考にしながら、まず基準年を定めさせていただいておりますので、若干ばらばらなところもあるんですけども、なるべく公的なもの、今後取っていけるものといったことで、考えて設定させていただいているところでございます。

なるべく分かりやすいK P Iの設定等につきましては、今後、本日の委員会の議論なども踏まえまして、また検討してまいりたいと思っております。

【水野座長】

もう一つ、移住定住に対して、流出についての言及と、それからその後のUターンみたいな話、その辺も含めて少し何かございましたら。

【山口企画振興部次長】

移住定住の件につきましては企画振興部のほうで所管しておりまして、これまでも様々な取組を行っておるところでございます。

今の若い女性の流出というお話は、先般、新聞記事にも出ておりまして、私も承知しておるところでございますけれども、大学卒業後、特に流出されていると記事のほうで拝見いたしました。

こういった流れにつきましては、企画振興部で様々な移住定住の施策をやっておりますけれども、それ以外に就職先でありますとか、そういったことの問題が総合的に絡んでくるのかなと考えております。

また、こういったことについては、部局横断で検討を重ねていきたいと考えております。

【岩城委員】

初回のこの会議の中で成長とは何ですかというご質問をさせていただいて、それに対して4ページに成長の結果の定義が出てきたのが非常に望ましいことだと思っております。幸福度日本一に向けた石川の未来の創造、幸福度日本一が、我々が成長した結果得られる成果であると理解しております。

大変共感するところございまして、私はもう既に石川県の幸福度は日本一、下手をしたら世界一だと思っているんですけども、ちょっとこれ最初に質問なんですけれども、今、何位なんですか。

【山口企画振興部次長】

今のところ何位というのは特にないんですけども、市町別でいろんなところか

ら幸福度ランキングが発表されていると承知しておりますけれども、各県別でこういったランキングなり、あるいはそういったものを標榜されているというようなことについては、今ちょっと承知しておりません。

【岩城委員】

これはちょっと大きな問題だと思っております。日本一を目指すと言っていて、今何位だか分からないと、どう目指していいかが分からない。例えば、マラソンを走っていて、今いいぞ、3位走っているぞ、あと2人抜けば1位だぞと声をかけることができると思うんですが、よし、何位だか分からないけど取りあえず真っすぐ走れと言われて、どうやって1位を目指すのでしょうか。ペースも乱れてしまいますし、どのくらいのタイムを目指せばいいかが分からないというところに関しては、少しちょっと目標設定自体の今現在の立ち位置の確認をいただければと思います。

私、調べてみました。国土交通省がまとめている豊かさの指標がございまして、これは可処分所得と基礎支出の差を都道府県別にまとめたものでございます。これが本当に豊かさかどうかはともかくとして、お金があって、自由に使えるお金がどれぐらい稼げる場所であるのかというところを調べてみますと、石川県は現在29位でございまして、過半数以下というところではございまして、幸福がお金とは限りませんが、とはいいいながらも、29位で過半数以下にいるというところは、その指標によれば分かってくるところでございまして、何をすれば1位になるかは、その指標をたどればおのずと分かってくるのではないかと考えています。

ですので、幸福度ナンバーワンというのであれば、幸福度の定義をぜひいただきたいと思っています。

KPIを設定されたというのもアグレッシブだと思っております、非常にいいことだと思っています。ただ、ちょっと幾つか気になるところがございまして、我々ビジネスの世界にいますと、KPIに追いかけて毎日生きているんです。営業利益率が何%以上ですかみたいな、3か月に1回、四半期の報告書の中で株主に問われていくんですが、そのKPIが最終的な目標とつながっていないといけないと思っています。最終的な目標は幸福度ナンバーワンである。幸福度ナンバーワンのブレークダウンしたものが各施策であり、KPIになっているべきだと思うのですが、ナンバーワンが何なのかが定義されていないので、KPIが正しいかどうかを把握する方法がないというのが一つ。

それから、各施策のKPIも、果たしてこれが幸福度ナンバーワンに向かうKPIなのか疑問に思うものが幾つかございました。例えば、14ページにある兼六園の入場者数が3,540万人になると、果たして我々は幸福度ナンバーワンになるのだろうか。大体観光客ですよ。観光客が来て、文化に触れてくれて、たくさん観光客が兼六園に来てくれたな、我々は幸福だとなりますかという、ちょっと難しいかなと思っています。

ほかにも幾つかございまして、36ページ、これはちょっと違う指摘なんですけれども、先ほど人口の転出の話がございました。この戦略3の施策5の移住定住の促進と県外に出てしまう人口の転出数のところは、施策とKPIが対応できていないという構造になっています。つまり、20代の女性が出ていってしまう原因は、転入してくる人が少ないからではなくて、純粹にこの土地に魅力がないことにあるのです。このKPIは自然減、社会減の解消が目標なのでしようけれども、そのためには移住を増やすのと転出を減らす。減らすところの施策がその前の施策とつながっていないので、こういったところのKPIのセッティングに関しては、施策とKPIの連動をぜひ取って進めていただきたいと思っております。いつも私が

株主から言われていることをただただ言い返しているだけでございますけれども。

最後に2点だけ、小さなリクエストでございます。

35ページのクリエイティブ人材を誘致します、テレワークを促進します。私は2年前に会社を東京から珠洲市に移しておいてなんなんですが、恐らく企業のテレワークのムーブメントはもう終わりました。これ以上テレワークが増えることはございません。なので、クリエイティブ人材を呼んでこようというのは非常にいい発想だと思うのですが、問題が一つございまして、クリエイティブな家がないのです。クリエイティブ人材が珠洲にたくさん来ているのですけれども、彼らが住む家がないのです。6畳一間のワンルームマンション、ユニットバスの家はあるのです。家が全然クリエイティブじゃない。個性豊かな人間は個性豊かな場所に住み、個性豊かな家に住むのです。この家の整備がないと、クリエイティブ人材は定着しないということになると思っています。

最後に、能登空港のところが33ページに書いてございました。私、週に1回ぐらい必ず乗っておりますので、日本で一番能登空港を使っているのではないかと思うんですが、この62%というのが厄介でございます。距離に対して値段が高いのは恐らく羽田ー能登空港便です。なぜだかご存じでしょうか。全日空が安くしないからです。どうして全日空が安くしないかという、全日空は安くしてたくさんお客さんが乗っても、乗った分だけ石川県に取られてしまいますので、逆にお客さんが全然乗らなければ石川県からお金をもらえますから、安くするメリットが何もないのです。搭乗率補償を日本で唯一やっている空港でございますので、片道の料金が非常に高い。伊丹便の倍です。そうすると、なかなか人が観光で来ようとか、移住定住のために検討しようというふうにも思っても、能登空港便高いからといって来ないんです。この62%の搭乗率補償をお考え直していただけないだろうかと以前から言っているのですが、そしたら県会議員の先生に脅迫されたので、これ以上は言うのをやめておきます。

【唐澤委員】

仕事柄、美術工芸云々のところで発言ができればと思っております。

今年はいしかわ百万石文化祭が行われて、皆さん気合が入っているところなんですけれども、8ページに国民文化祭を一過性のものとせずと書いてあって、この一言で終わってしまっているんです。

実際のところ、多分一過性で終わると思うんです。これは周年事業ではないんですけれども、特に周年事業のほうがまだましで、こういう大きなものは明らかに一過性で終わってしまうんです。私たちもそういう体験をしてまいりました。恐らく県民の皆様もそう思っているんです。ですから、それをどういうふうにつなげていくかがもう少し具体的に見えてくるといいのかなと思いました。

もう一つは、文化を一くくりにして、いろんな項目を全部連ねているんです。石川県の優れた文化の継承と発展という中に、美術や音楽や何やら全部入り込んでいる。ですので、もう少し細分化をしていただいた中で、それぞれがどういうふうになっていったらいいのか、県民の皆さんにどういうふうに戻元できて、どんなふうになっていって、こんな目標があってというほうが具体的に分かりやすいのかなと思いました。

いつも思っていることなんですけれども、文化は非常に大きなものを一くくりにしてしまうんです。先ほど食という話もありましたけれども、ここだけでも美術工芸、例えば音楽で、今度、楽都音楽祭があったりします。石川は食の文化もすごくいいですけれども、そういう

ものが一つのくくりになっていて、それがそのまま動いてしまっている。もう少し細分化していただくことによって、それぞれの専門の方々のお話を聞いたり、意見が反映されていて、より魅力ある豊かな地域、豊かな県になっていくのではないかなと思いました。

文化資源を活用した観光が近年よく言われておりまして、観光庁からもいろいろと圧力があつたりして、それに合わせて意見や案を出して予算を取って、観光庁が進める何かで、県だと資料の11ページ目だったか、予算を取って動いていると聞いているんですけども、そこに県が関わっているかといったら多分関わってなくて、それぞれがばらばらで動いているんです。

その中の一つとして、国立工芸館は企画会社とタイアップして、こんなことができたらいいなというのをしているんですけども、そういった個別なもので見えてこないものもうまく吸い上げて、県の活動、県の事業とうまくリンクさせていっていただけると我々も動きやすいですし、県民の皆さんも多分参加しやすい。恐らくみんな観光なので、観光客目当てになってしまっていて、県の皆さんのほうに向いていないところがあります。

最近、コロナが落ち着いてきて、展覧会のお客さんも多いんですけども、多くの方は観光客になるんです。ですから、土曜日、日曜日と平日の入館者数のギャップが物すごく大きいんです。平日をいかにして盛り上げていくかをいろいろと考えるんですけども、そういったことも一緒に考えていただけるといいのかなと思った次第です。

【水野座長】

この間、国立工芸館のポケモンのシリーズを見たんですけども、大変面白かったですね。それが九谷の若手の作家たちの最近の動きと少し共通する部分もあって、九谷の連中もこれを見て興奮しているんだらうなと思った次第ですけども、そういう意味では結びついてきているのではないかなと思っております。ぜひこれからもお願いします。

【興津委員】

私は観光関係、旅行関係に携わっております。

まず最初に申し上げておきたいのは、ややもすると観光を物見遊山だけで捉えがちなんです。実は経済的効果というのが一方で石川県にとっては非常に大きなものが発生します。そのことはやはり一方でしっかり押さえていただきながら、皆さんから批判のないような取組をしっかりとやっていかなければいけない。物見遊山だけで事業を進めていくと、先ほどから意見があるように、幸せ度が上がるのかというご質問が出てくるような状況でございますので、もう少ししっかりとした内容を見える化されたほうがいいかなと思います。

それからもう一つ、観光庁も既に2025年までの観光立国基本計画を発表されています。その中でも目標数値をしっかりと出されています。例えば、持続可能な観光地域づくりを100地域選定しますとか、訪日外国人の方の旅行消費額単価1人20万円を設定しましょう、地方での宿泊は2泊を目指しましょうというふうな、国自体が地域交流に取り組んできて、KPIをしっかりと出されています。

今回、県に細かいところまで出してほしいということではありませんけれども、一方でこれを踏まえて石川県は観光という分野でいえば、能登、加賀、金沢と文化、温泉、農村漁村、この3つの文化があるわけです。したがって、それぞれの文化をどうやって掘り起こし、そして地域の皆さんがこれを楽しみながら来県者、訪問者に見せることができるか、そこに幸せを求められないか。

それとともに、もう一つ石川県にとって重要なことは、滞在日数の拡大なんです。今のところ石川県ではなぜか1泊なんです。ところが、よくよく考えれば、県の方針ですから他県のことと比較するようなことを出すわけにはいきませんが、石川県を拠点として岐阜、富山、福井、場合によっては長野まで日帰りで行ける起点になれる事業ができるわけです。したがって、他県のことを書くわけにはいかないけれども、石川県の起点とした観光戦略みたいなものも一方でしっかり出されること。

それから、国の方針にもよく出ておりますけれども、交流人口の拡大と宿泊人員の拡大と、この文言も、経済的効果が上がるようなもう少し分かりやすいものにする。ただ拡大だけでは、先ほど言われるとおりに何が幸せにつながるのと問われます。私もそこは大変心苦しいところだなと思いますけれども、交流人口の拡大は絶対的に必要なところであります。

私も会社を持っていますけれども、KPIで求めたときに、届かない数字を目標として出して、それに対する反省と効果みたいなものをまた見直すわけです。そこにおいて出した後の効果は何があったのか、不足は何だったのか、もちろんされると思いますけれども、これを率直に表に出されて、それを糧にまた次のところへ進めるように、結果として10年という長いものを出すと、どこで検証するのか、10年前に何を決めたんだと言われないうちに、ある程度切りながら何年かごとに多分されると思います。途中途中で検証しながら、目標に向けて、時には目標数値の修正、あるいは一方で物すごく伸びたところは、そのままでもっとできるところは拡大していけばいいし、社会状況、今回のような伝染病の関係があったことによって大きくまたへこむ部分もあります。そういう場合のためにも修正もあり得ることを検討していただきながら、この方針を進めていただきたい。

特に観光という切り口は幅が広く底が深い。いろんなところに影響してきます。石川県は観光立県と思っておりますので、磨き上げ、深掘り、滞在日数も増やすために、泊まらなくてはいけないコンテンツの開発をぜひやっていただきたい。

先ほどお話あった食もそうですし、文化芸能の部分で、夜も見学できるようなものとか、兼六園もライト照明をして夜でも散策できるようにするとか、いろいろ方策はこれから出てくると思います。細かいことはここでは必要ございませんけれども、考え方としてはそういうものを念頭に置いていただきながら、地域に貢献できるようなものを私どももご支援申し上げていきたいと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

【山口企画振興部次長】

今のご意見についてなんですけれども、まず成長戦略全体につきましては、先ほども申し上げましたように今後10年間を見通したものということをつくっておりますが、大体5年経過したぐらいで見直しも考えておりますし、毎年、議会にも報告なりさせていただくということで考えております。適時その際にはまた見直しも考えておりますので、どうかよろしく願いいたします。

【岩城委員】

5年の間のKPIってあるのですか。10年の間の毎年の。

【山口企画振興部次長】

そこまでの設定は今ございません。

【岩城委員】

それをやらないと見直せないです。要は今年も未達成です、来年も未達成ですという形になりますので。多分、1年ごとに持たないと。我々は3年分持っています。

【久保委員】

石川県芸術文化協会という、伝統文化、いろんな芸術関係の諸団体が加盟した協会の事業を通して感じたことをお話したいと思います。

文化に親しむ環境づくりの中で、文化の担い手である子どもたちが石川県の文化に触れる機会の充実と書いてあります。言葉で言うと非常に簡単なんです、なかなかそういう機会はあるようでないような気がしております。

金沢市では伝統芸能で、能楽や茶道といったものに触れる機会をつくっているようですが、まだまだ十分でないような気がします。実際に公演や舞台になってきますと、まさに民間ベースでいうと採算がありますので、子どもを入れてということになるとなかなか合わない、大人たちの会になってしまう。実際のところ、これだけ文化が発展した地域であっても、子どもが本物に触れる機会はなかなかあるようでないのではないかと思います。芸文協でも、子どもたちが本物の芸能なり文化に触れる機会をできる限りつくりたいと考えておりますのは、やはり、豊かなまち、魅力ある地域というのは、やはりそこに住まう人たちの影響が大きいと思います。将来のまちづくりを考えた場合に、そこに住まう人たちの人間性に物すごく影響される。観光地で人気のあるところなぜそこへ行くかと聞きますと、親切な人が多いとか、割と分かりやすい理由があるわけです。地域の事情を聞いていますと、その地域の伝統的なもの、彼らの文化に小さいときから触れて、それによる人間形成の中でそれらの影響を受けていると聞きます。当然この地域はそういうものに物すごく恵まれていますので、それを有効に活用するといいますか、機会を与えることは大事な視点かなと思っています。そんなことを続けることで、親子で参加したり、そういうものの文化、例えばスポーツに触れていく、それが、いろんな事業をやる上で、ボランティアが非常に大事になってきます。少し話はずれますが、パラスポーツの全国大会という視点で考えると、参加者だけではなくそれをサポートするボランティアが倍以上いるわけで、そういう方がこの地域にそれだけいるのかなということもあります。音楽祭をするにしても、かなりの人数のボランティアが必要。いろんなスポーツ大会も同じです。そういうことに触れる機会が小さいときからあれば、何となく自然に体の中にそういうものが植えつけられて、参加してみたいという意味にもつながるでしょうし、実際に参加する能動的な人も増えるのではないかなという、漠然とした言い方になりますけれども、そんなふうに感じています。

文化観光という視点の中で、もちろんスポーツも入っていると思うんですが、スポーツ観光というものも石川県には結構豊かにあるのではないかな。サイクリングは昨今物すごく人気がありますけれども、随分前から能登半島を一周するサイクリングもありますし、最近ではゴルフや温泉が人気ですが、これが両方そろっている地域はほかにあまりないように思いますので、こういう利点ももう少しクローズアップしても面白いかなと。そういうものに魅力を感じる人たちもかなりお見えになり、それに関わる人も交流ができるというような感じに思えます。

【志村委員】

私のほうは国際担当の副学長ですので、国際交流や国際人材になるべく絞ってお話した

と思っています。観光、スポーツ、インクルーシブ社会について発言します。

まず、観光ですけれども、観光は石川県にとって非常に重要だということは、ずっと各委員おっしゃるとおりであります。大事であるけれども、インバウンドだけに頼らない産業構造をつくらないと、非常に困ることになるということを我々はコロナで学んだということですので、観光は本当に頑張るんですけども、それだけにならないような施策をぜひお願いしたい。

その中で、滞在型であるとか、コンテンツ文化、エスニックツーリズム等々出てくると思うんですけども、石川県には本当に素晴らしいコンテンツがあるので、これを上手に利用した観光、特にインバウンドの方々にそれを楽しんでもらう。それが大事なんですけれども、そのときに先ほどの宿泊数の問題があります。お金はいろいろインフレ等と連動しますので、特に海外の観光客の1人当たりの宿泊数は海外の文献でよく出てくるんですけども、これは示唆に富むKPIになると思います。

その上で、コンテンツもちょっと絵付けをして満足というのではなくて、本格的にセミプロのような学びができるものが石川県にはあるので、リピーター、長期滞在のクラフトワークの観光のようなもの、それに見合った施設も必要です。安価な長期滞在用のアコモデーション等による長期滞在型もぜひ頭に置いていただければ、例えば、海外から直接来る人もいますし、大都市圏に住んでいる外国人が石川県のコンテンツに魅力を感じてリピーターになる。私の外国人の友人は京都にアパートを借りていましたので、そういう人もいます。それを石川県で実現したい。

そのときにお願いしたいのは、県の担当の職員の皆さん、ご自身が長期休暇を取ってください。2週間、3週間の長期休暇を何回か取らないと、実感として施策に生きてこないと思うんです。ちょっと余計なことを言いましたけれども、やっぱりそれは大事だと思っています。

リスクリングの話は1回も出ていないですけども、これは観光のところで使えるのではないかと考えております。

スポーツです。この中にスクールスポーツから地域スポーツへのシフトチェンジの話が出ていて、とてもうれしく思っています。私はドイツ学が専門ですので、ヨーロッパは本当に地域スポーツが盛んで、そういった中で、頑張ったアスリートがその後地域スポーツの指導者になるという人材循環が起きるので、ぜひそういうものを進めていただきたい。その中で外国人も入れていただくと、世界中の優秀な人材が地域のスポーツに貢献することが実現したらうれしいなと思った次第です。

インクルーシブですけれども、日本語のオンラインというのもありましたが、フェイス・ツー・フェイスの日本語教室が外国人市民、県民の大きな居場所づくりに役立つことは様々な研究で明らかになっています。県の中でもいろいろな地域で実際に、地域で頑張る、そういう日本語教室があります。その辺もぜひ意識していただければと思います。

それから、教育の部分に言及がないんですけども、初等教育、中等教育、外国の人、外国を背景にする子どもたちをどう教育していくか、そしてどう地域に定着していただくのか。その部分は非常に大きなウエートを占めていると思っています。

私は14年間、小松で毎週日曜日に子どもたちに学習支援のボランティアを連れていく活動をしていました。その人たちは本当に日本に住みたいと思っています。そういう人たちをしっかりと地域が受け止められる形にぜひしていただきたいなと思っています。

そして、子育て情報です。外国の定住の人が子育てに苦労しないような仕組みを、ぜひ県

も市町と連携してやっていただければありがたいなと思っています。

そういう意味で、K P I も外国人の住民の数もいいのですが、例えば、技能実習生。制度が今後どうなるか今議論されていますけれども、帰ることが前提の人ではなくて、定着する人を意識されたほうがいいのではないかと思います。

最後に先ほどボランティアのご発言があって、そうかなと本当に思うんですけども、国際交流もボランティア頼みのところがあります。でも、専業主婦を前提としたようなボランティア思想はもうあり得ないので、この点では本当にワークライフバランスをしっかりと考えていかないと、私もボランティアのNGOにたくさん関わっていますけれども、エイジングの問題は物すごく深刻です。ボランティアの確保は本当に厳しい状況がありますので、そこもぜひ頭に置いておいていただきたいと思います。

【水野座長】

先ほどの久保委員も含めてですが、ボランティアというか奉仕というか、地域貢献みたいな、もっと積極的な生き方として、あるいは自分自身の楽しみとして、いろんな人材を子どもたちや訪問者に伝えたりすること自体が楽しいというようなことが起こると、本当に豊かな地域社会になるのではないかという感じがします。

【しもおき委員】

料理研究家、フードコーディネーター、大学の講師などをさせていただいておりますが、私も井村委員と同じで、食文化が入ってないし、私の出番がないと思ってちょっと不安になりながら見ていました。

食に関してももちろんそうですし、9ページの文化のところの二重丸、茶道、華道などの伝統文化活動をより身近に感じることでできる場の創出に向けた取組で、茶道、華道って我々の若い頃は嫁入り道具として、お茶とお花ぐらいやっておけと言われた時代ですが、誰も今そんなものは習わないし、エステ行って、ネイル行って、ヨガ行ってという時代で、若者がなかなかそこに到達していないんです。もっと身近にするのに一体これをどうやって取り組んでいくのかなと思って。

例えば、片町きららとか中央公園、若者とか子どもたちのいるところで、これもまたボランティアが必要なのかなと思いますが、ワンコインの気軽なお茶席で、お茶ぐらい飲めますよというのでいいと思う。お茶のお点前して出してとなるとなかなか師範の免状まで要と思うけれども、石川、金沢の人ってお茶席あったらさっさと入って、さっさと飲めるぐらいの技量がありますというのが底辺の底上げなのかなと思ったり、家の庭などのちょっとした花を摘んできて、さっと形にできるような、簡単な手軽なワンコインの取組が日々あれば身近に感じて、もうちょっと底辺が広がっていくというか、敷居が高くてお茶も飲めん、お花も生けられんというのではなくて、もっと簡単な取組からしていったほうがいいかなと。

10ページの二重丸、東京藝術大学との連携で、障害者や子ども、高齢者に芸術・文化に親しむ機会の充実、なぜ東京藝術大学なのか。東京藝術大学がそういうノウハウをともしっかり持っていらっしゃるのか。それは一択なのか。金沢美術工芸大学とも連携しますとは書いてあるんですけど、もし東京藝術大学に障害者との触れ合い方、子どもや高齢者との触れ合い方にすごく卓越したものがあれば、そこを地域に伝授していただいて、もちろん金沢美大でもいいし、金沢学院大学にも美術文化学科があります。金城短大にもデザインがあるから、地域の中でもっと広めていくのであれば、外からのノウハウをいただいて、地元

の大学に還元していくというスタイルを取らないと、東京ありきみたいな感じだと面白くないなと思って見ていました。

今度は 15 ページのスポーツに関して、日本体育大学との連携による高校生の競技力の向上、これもなぜ日本体育大学の一択なのか。ほかの早稲田や筑波などアスリートを育てる大学はいっぱいあるので、そこも日体大が高校生を育てるのが一番上手という何かキーがあるのか、そこを教えてほしいなと思って。星稜大学も金沢学院大学も金沢大学もそうだし、立派な地域のアスリートがいるので、その人たちも使いつつ、ノウハウをもっと地元に戻していかないと、外からの力だけだったらちょっと面白くないなと思ってこの2つを見ておりました。

国際交流に関して、食に関してなのですが、私、最近外国人の方にお料理を教えたりということが結構増えてきたんです。その中で、宗教に関して食べられないものがあるって、イスラム教の方がすごく増えてきています。イスラム教の方は飲酒ができないということで、調味料としてお酒で魚の臭みを消すとか、みりんを入れることができないので、あらかじめ聞いておくことは自分の中ではできるのですが、突然言われてレシピを変えなければいけないということがありました。

イスラム教は多分 20 年か 30 年後にキリスト教の人口を超えるのではないかとされているので、10 年、20 年先に海外のお客様を呼んで観光立県にするのであれば、今からの取組としてハラルなどの宗教的食事に関してのノウハウを身につけさせてあげる予算を立てたいと思います。

私は以前、人口減少でホテルとか旅館とか民宿が困っているから、志賀町をハラルの町にしたらどうかと提案をしたのですが、ちょっとと言って立ち止まってしまった。私は、個人的な考えとして能登こそハラルで一発もうけたらいいなと思っているので、何か特色を能登に持たせたり、人口減少に歯止めをかけるものとして、ハラルの町というのは言いにくいと思うんだけど、言ったら絶対もうかるから、何かできたらいいなと思いました。

【酒井県民文化スポーツ部長】

文化における東京藝大、スポーツにおける日体大ですけれども、これらの学校とは石川県とこれまでも交流をしてきた歴史がありまして、先日、連携協定を県と大学との間で結びさせていただきました。これまでのものをもっと発展させていこうと。例えば日体大でしたら、高校生とかが向こうの人に来てもらって習ったり、系列の高校の方々と交流したり、さらに交流の幅が広がるということで、今ここには書かせていただきましたけれども、まさにご指摘のとおり、そこだけで終わってしまうものではないと思っています。最先端のノウハウを持っていらっしゃると思いますので、それが地域に広がっていくような取組に広げていきたいと考えております。

【高峰委員】

私は移住のことをもうかれこれ 10 年させていただいていますので、専らそのことについて、資料でいうと 34、35 ページのことについて書かせていただきました。お手元に資料をお配りいただいているので、これは詳しく説明すると切りがありません。先ほど井村さんや岩城さんからこれに関連するご指摘も頂戴していますので、私のほうからは特に優先的に取り組んでいただければというところをお話しさせていただきたいと思います。

資料を作らせていただいた理由は、戦略の体系の中で書かれていることに結構濃淡がある。

すごく具体的に、全市町でこういうことをやるのだということとかも書かれているのですが、移住に関しては既存の施策が基本的には書かれてはいますが、戦略というには新しい要素が弱いのかなということもありましたので、過去10年間ぐらい移住に関わってきた中で私どもがやっていることと、さらにこれから進めていきたいことを書かせていただいているので、これを全部盛り込んでくださいということではもちろんございませんが、一度ご検討いただけるとありがたいと思っています。

例えば、情報発信に関しては、地域の企業経営者や先輩有志、地域で活動している方々がいらっしゃるので、できるだけ顔の見える情報発信にもっと力を入れてやっていただきたいと思っています。

井村さんがやっていらっしゃる農業とか、食に関する部分も後継者がいないということで、どんどん畑が潰れていくとか、果樹園も木を一気に切っているというケースを加賀でも能登でもよく拝見しています。しっかりとこれまで培ってきたものを引き継いでいけるような仕組みを、もっと地域、業界を挙げてつくっていただきたいというのが強調して書かせていただいていることです。

地域おこし協力隊の制度も活用しましょうということも提案させていただいているのですが、KPIの中にはそれほどたくさんの地域おこし協力隊を入れる想定にはなっていません。私どもは前年度、農業の担い手ということで4人、宝達志水町だけで入れていただいています。そういう新しい事業の担い手として協力隊をもっと活用して、後継者含みで経験を積んでいただく。その延長上に本来の農林の事業で支援するという仕組みにしましょうという提案をさせていただいているので、そこを何とか取り組んでいただけるといいなと思っています。

2番目の移住体験の仕組みづくりの中では、私ども各広域の組織もやっていますけれども、個別自治体さんで定住促進のための協議会を立ち上げてきていただいています。加賀市と能美市と宝達志水町では、移住体験の家を私どもが管理運営していますので、極端な場合、明日から行きたいんですけど泊まれませんかみたいな人にも非常に柔軟に対応しています。当人の都合に応じて私どもがサポートしています。そういうことによって、スタッフには負担をかけているのでブラックだと言われていました。改善すべきところはたくさんあるんですけども、そういうことによって、本当に一人一人のニーズに寄り添ったきめ細かな支援という、具体的な中身ができていくのではないかと。そのための移住コーディネーターは私を入れて8人おりますので、それぞれが各地に張りついて活動しているので、そういう体制をできれば全ての自治体でつくっていただきたいと思っています。

県からはなかなかそんなことは言いにくいとは思いますが、自治体によっても濃淡がすごくあります。そこを県の立場から強気に働きかけていただいて、あの町はいいやという話ではなくて、私どもが受託するというのではなく、積極的にお手伝いしますので、こういう仕組みをつくるのが有意義であるということをご提案させていただきながら、全県的にそういう体制ができて、それによって石川県は本当に移住者ウエルカムの地域であるということになっていくのではないかと考えているので、そこを何とかしていただけるといいなと思っています。

家に関しては一番ネックになっております。岩城さんが先ほどおっしゃられたように、珠洲市も割とアパートが多くて、単身移住者はアパートに住んでいるというケースを結構聞いているんですけども、空き家もいっぱいあるんです。これをもっと公のお金も活用して、民間の知恵も入れていただいて、すぐ住める戸建て賃貸物件を増やしていただきたい。これ

ができれば確実に移住者は増やせます。

家待ちの人を私どももたくさん抱えています。どの市でも町でも同じ状況があります。ここにもっと力を入れていただきたい。それで、勝手な目標設定で、毎年 100 戸ずつぐらいそれぞれでつくっていったって、年間 300 戸ぐらいは用意できるような体制を石川県として組んでいただきたいというのが私どもの願いでございます。

2 番目の多様な暮らしに関することについては、先ほど女性の流出率が高いという話もありましたけれども、ここをもっと真剣に考えていただきたい。どの自治体でも必ず出る話です。20 代の女性はどんと減って、30 前後で男は戻ってきます。数値的なデータが出ています。でも、女性は帰ってこない。なぜ帰ってこないのかというところを、ここにいらっしゃる女性委員の皆さん方からも意見を聞いていただきたい。僕は勝手に書いていますけれども、すごく保守的で閉鎖的な環境の中で育てられた女性たちは帰ってこないのかなと思っています。僕らもそれが嫌で東京へ出ていった口ですから、やっぱり何かそういうことについても根本的に解決する方向を目指していただきたいと思っております。

そのためにも、よそ者を入れることが地域を変えることにつながると思っているのですが、私の主眼としては、取りあえず地域振興のためには人を誘致することだと思っておりますから、そんな観点でも取り組んでいただけるとありがたい。

あともう一つは、子どもたちにもっと地域に関わることをつくっていただきたいんです。今、高校魅力化事業で、各自治体で高校生が地域課題に取り組むということもしていらっしゃいます。本当は文化活動も小学校、中学校、高校と、地域の伝統芸能について学び、それを実際のお祭りとか、民俗文化財として価値のあるところで、子どもたちが担う仕組みもぜひつくっていただきたい。それをやっていくと、戻ってきやすいです。お隣の富山県の五箇山で、うかがっている話ですので、ぜひそういうところも研究していただけるといいなと思います。

【西川委員】

スポーツの分野ということでお話をさせていただきたいと思えます。トップアスリートの部分は丸山先生もいらっしゃると思うので、裾野の部分で少し思っていることをお伝えできたらと思えます。

心身の健康が幸せ、幸福度というところでもすごく大事ななと思っております。健康寿命というと、どちらかというと高齢者の運動環境という形で話されることが多いのですが、実は小学生の頃とかにいかに体を動かしているかが健康寿命にとってはすごく大事で、骨の成長も二十歳までと言われてますから、骨密度なども年が行ってからやってもどうしようもない。今、子どもたちが外で遊んだりスポーツする機会や率がすごく減っておりますので、今の子どもたちは現在の健康寿命は維持できないだろうと言われてます。小さい子どもたちがスポーツや体を動かすことも重要な視点なのではないかと思っております。

伊藤委員の資料にもあったのですが、やりたいことにチャレンジできる、自分がしたいスポーツを手軽にできることがすごく大事なのではないかと思っております。その中で、部活動の問題は大きな問題ではないか。特に団体競技は廃部になっているところも多いですし、地域の人口減少が大きいところであればなおさらという状況の中で、やりたいスポーツができる環境はどんどん減っているのではないかと感じております。

地域クラブ活動の中では、プロスポーツも担い手として挙げられたりしておりますけれども、民間の活力と言われますが、財源の問題解決が見えてこないのので、我々もトライするの

が非常に難しいなど正直思っております。これまで先生方のボランティアで成り立っていて財源がないところなので、新たな財源が必要になってくると思うんですけども、そのところをしっかりと併せて議論していただけるとありがたいなと思っております。

当然、やりたいスポーツをやれるというところでは施設の問題も重要になってくると思っております。パラスポーツも含めてですけども、ツエーゲンもブラインドサッカーチームを持ってありますが、なかなか練習できる環境がなかったり、そういう問題もあります。ハードの問題なので、今回の計画では西部緑地のところだけが触れられていましたけれども、もっともっと一般の方々の環境もすごく大事なかなと思う中では、競技人口に合った施設の数を検討してもいいのではないかな。

と申しますのは、どこへ行っても野球場は日本中にすごくたくさんあるんです。本当にこんなに野球場が要るのかと。でも、やはり野球場なので野球でしか使えなかったり、競技人口の比率でいうと圧倒的に過多なのではないかと。そこを別のスポーツでも使えるようにしていくと、新たに何かを造らなくても用途を変えていくとか、少し改修するとかでいろんなスポーツに使えたりとか、競技人口に合ったハードの整備というところもぜひ検討いただけたらなと思っております。

【水野座長】

子どもたちにスポーツをとというのが健康を含めて非常に豊かな生活を保証するという大事な指摘です。

小中学校のスポーツ部がだんだん縮小していく中で、地域スポーツが頑張っていく、そういう基盤にどうやって移り変わればいいのか。ドイツなんかを見ると大変進んでいます。

【早川委員】

前回、成長戦略会議のゴールは何だということところで、私は勝手に、最終的には人口が増えていくことではないかと申し上げました。今回、幸福度日本一の石川県を目指すというフレーズになっているんですけども、結果、人口が増えていくことなのかなと思っております。それは移住定住も含めて、流出人口を減らすという。つまり魅力のあるところには人が集まってくる。魅力ある県をつくりましょうということかなと思っております。

KPIにつきましては、様々なご意見も出て、岩城さんからもっと正確にしたほうがいいのではないかななど出てきまして、そうだなと思っております。

豊かな県をつくるには、一番最初に食い扶持といいますか、産業がしっかりしているということだと思います。ほかの部会で産業をつくるということをやっている。1次産業、2次産業、3次産業、足腰がしっかりしている。だから、人が集まってきて、衣食住足りたところで文化が生まれると思うんです。つまり百万石というすばらしい財力があつたからこそ文化が生まれたと思うんです。それが石川県の一つの魅力だと思うんですけども、まずは足腰をしっかりしないといけないなということです。

文化につきましては、食文化がないというのは残念だなと。食は文化なので、そこはぜひとも取り入れてほしいなと思いました。

35 ページの移住のところ、クリエイティブ人材というところに目をつけられたのはすごくいいなと思っておりました。前田家は文化を発展させるために全国から職人を呼びました。これはクリエイティブ人材だと思うんです。全国から今のクリエイティブティにあふれた人たちを呼んでくるということはすばらしいなと思いました。

どういふふうになればいろいろな人が集まってくるかとなると、石川に来るといろいろなことが整備されていて暮らしやすい、と同時にもう一つ重要なのは、ここが世界とつながっているということが魅力になるのではないかと思ひまして、石川の文化が世界につながっているといふふうには持っていったらすばらしいなど。

41 ページ、42 ページにありますように、国際交流をどんどん深めていって、外国人の方も海外から来ていただいて、帰って、日本に行って石川にはこういうものがあつたと広めてもらうといふような循環ができていったら、どんどんよくなつていくかなと思つております。その中で工芸館ができましたので、世界に工芸の魅力を伝えていきたい。世界の美術のマーケットの中で、工芸はアートピースとしての価値よりもまだ低く見られているみたいです。最近はいろいろブームで目が当たっているようですが、そういうことも世界に向けて石川県が発信できていくと、石川に行くといろんなものが整っているけれども、世界とつながっているじゃないか、みたいな動きになつていったらうれしいなと思つておりました。

【丸山委員】

私はスポーツの専門なのでスポーツのところからお話をさせていただきます。

先日のスポーツ推進審議会で議論された内容がここに反映されていて、スポーツも石川スポーツ医科学情報センターだったり、アーバンスポーツの振興だったりといふところで新しい試みを行つていって、個性豊かな地域づくりにつなげていく。そういう方向でいいのかなと思ふんですけれども、私のほうから2点、気になった点があるのでご指摘させていただきます。

まず、16 ページのところですけれども、アスリート・センターのところ。自分の専門であるところから、二重丸の、日本体育大学との連携による選手の自主性と書いてあるんですけれども、これは意味合いが変わってしまうので、できれば、主体性にさせていただきたいと思ひます。その前にもアスリート・センターという言葉が使われていることもあるので、できれば、主体性にさせていただきたいといふところです。

18 ページのところ、今、スポーツ界では学校部活動の地域連携といふところが大変大きな課題になっています。石川県もどういふふうに取り組んでいくかといふところになるかと思ふんですけれども、先ほど志村先生からお話があつたように、ぜひヨーロッパのスポーツクラブ経営といふところを参考にさせていただきたいと思ひます。私自身もドイツで競技をやっていた時期がありまして、向こうのスポーツクラブの運営あるいは地域との連携が物すごくよくて、私はドイツのバート・クロイツナハという都市にいたのですけれども、そこにあるトランポリンクラブとほかの地域にあるクラブがしょっちゅう一緒に交流会をしたり、ホームとアウェーみたいな形で、そっちのクラブに行つて大会をする、トランポリンも地域交流をかなり盛んにしていました。サッカーはもっときっとそのシステムができているかと思ふんですけれども、その辺り、ヨーロッパのスポーツクラブ経営をぜひ参考にしてもらつて、石川県が地域連携のモデルケースとなるくらいの形で個性を発揮していければなと思つております。

もう一つ、スポーツだけではないんですけれども、20 代の女性が外に出ていってしまうとか、戻つてこないといふお話がありました。これに関しては、大学教育に関わる立場としては、石川県は大学数が多いという特色があるので、大学にほかの地域から学生さんはいっぱい来てくれます。その学生さんをぜひ石川県にとどめるという方向も考えたらいいかと思ひます。そのためには、やっぱり就職なんです。石川県に来た学生さんがこちらで就職できる

ような、働き口がないと残らないですし、そういうところを企業と連携してやっていければなど考えております。

【水本委員】

先日、知り合いの方が有り合わせのお道具でお茶会するからということでお招きいただいて行ってきたんですけれども、お茶事後にお香の先生が出てきて、聞香をしましょう、そして次に硯と筆が出てきまして、次に源氏物語の話になりまして、一般の方々に浸透している文化土壌が物すごく奥深いなと思って感激いたしました。最後はこうやってまた楽しむために健康でいましょうという話で締めくくったんですけれども、そういった楽しみをさせていただきました。

私のほうから4つほど項目を挙げさせていただきます。

1つはK P Iですけれども、地域づくり活動の中で、成果とか効果を数値で表わしてくださいとよく言われて困ることがあります。イベントでの売上げとか、来場者数とか、経済効果が分かるものはいんですけれども、コミュニティとか交流とか活性化とか、そういったことは数値化が非常に難しいんです。今回、この計画を拝見しまして、K P Iで数値化して効果の把握に取り組むことはとてもよい取組だと思えます。

例えばですけれども、おいしい食べ物屋さんやお菓子があったとして、それは広報で観光客が知ることも多いのですが、地域の方があそこのお菓子おいしいよとか、あそこのお料理おいしいよという声が一番効果的なので、そういった形でファンを拡大して観光客にもどんどん浸透させていくという方法もあるかなと思っています。

先ほどスポーツの話も出てきましたけれども、体験ツアーとかスポーツ観戦とか、目的とか目標と一緒に向かって進むとか、一体感、交流感で幸福感が味わえることもありますので、そういったことも数値化できたら面白いかなと思っています。

次に、地域づくりという名前がついておりますので地域づくり協会としては非常に反応するんですけれども、いろんな専門分野やテーマが持つ魅力と地域性、地域住民をどう結びつけていくか。テーマや分野はあるけれども地域性はどうかということ、地域とはどこまでかとか、どう捉えるかとか、どこの市町なのかとか、エリアとか、どこに落とし込んでいくのかということ等を皆さんでまた今後考えていきたいと思っています。

コーディネーター機能ですけれども、地域づくりの魅力づくりの推進には各分野の専門家の皆様と実現に向けてサポートする人材が必要だと思います。コーディネーターとかアドバイザーとかいろんな方がいらっしゃると思いますけれども、そういった方々を加えたチームワーク、ネットワークが構成できればいいかなと思っています。

38 ページから 43 ページ辺りに、私の地域づくり協会にかなり関わったことが書かれております。地域づくり協会では、地域づくりリーダーの育成とか、コーディネーターの派遣とか、加盟団体の増加拡大とか、まだまだ個人レベルですけれども地域おこし協力隊との共同とか交流を行っております。コーディネーターの機能と人材を提供できるように努めていきたいと思っています。

当協会におきましても、この計画を実現させていくために、計画の趣旨に沿って歩を合わせて活動していきたいなど改めて強く思わせていただいております。5月27日に総会を開催いたします。公開できる部分だけでもいいので、ロードマップ的に紹介できれば、さらにこの計画に対して協力ができると思っています。

【森委員】

今日、初めて参加させていただきまして、資料の中身を見るとかなり充実しております、自分のふるさとにさらに自信を持ったところでございます。

私どもは旅行業ということで、誘客に関するお話になってくるかと思います。今、文化・スポーツ観光という大きなお題目の中で、文化観光につきましては、私の肌感覚でいくと他県に10歩も50歩もリードしたトップランナーであると。ますますこれからもさらに発展を続け、持続できるであろうと思っておりますが、一つお願い申し上げたいのは、スポーツ観光の充実化という部分でございます。

もちろん自治体、行政の皆様のご尽力で大学の野球場、サッカーグラウンドなどインフラは整っております、スポーツ交流という部分での誘客については、これからますますさらに交流拡大していきたくらうとは思いますが、スポーツ体験という分野での誘客も県の皆さんにお願いしたいと思っております。

点の部分で申し上げますが、ゴルフをフックとしたお客様の旅行が、昨年1年間に個社で約8,000名を超えるご利用があった。今、全国の大会、学会を見ておりましても、ほとんどのエクスカッションの中にゴルフが入っている。そうすると、ゴルフをフックとした誘客が大切になってくるのではないかと考えております。

県内のゴルフ場を幾つか見ておりますが、とあるゴルフ場辺りは日本国内の有名ゴルフ場と40コースの提携を組んでおりまして、そういう部分で考えますと、それをフックにして誘客活動をするのであれば、県内外の有名なゴルフ場の質の高い富裕層のお客さんをさらにこっちに呼び込めるのではないかと考えております。

加えて、そういったお客様は必ず県内の温泉地並びにホテルに宿泊しますので、富裕層であるものですから、さらに経済効果というのはしっかり上がってくるのではないかと考えております。

また、県内の幾つかのゴルフ場はどこかのグループチェーンにも入っております、いろんなところからのお客様がさらに呼び込めるような形になっておりますので、点の部分で申し上げて大変申し訳ございませんが、そういったゴルフをフックとした形の中で石川県をもう一度見詰め直して誘客活動に励めるのではないかと考えております。

【岩城委員】

資料の読み上げに時間を取るのが非常にもったいないので、読み上げなければいけないのであれば、事前に動画で撮って見ておくとか、そういう方法があると思っておりますので、2時間の限られた時間の中で我々から意見がたくさん出るような環境づくりにご協力ください。

4. 閉会